

「マイクロスコープと CBCT を有効利用する根管治療」  
「Effective Use of Microscope and CBCT for Root Canal Treatment」

辻本 恭久

日本大学松戸歯学部歯内療法学講座

1990年代からの歯内療法への進化は誰もが認めるところで、Ni-Ti ロータリーファイル・マイクロスコープ・MTA・CBCT が登場したことで治療方法が変わり、治癒率も向上した。また、診断力が飛躍的に向上したと言っても過言ではない。例えば、抜髄を行わなければならない患歯の歯根、根管の形態情報は CBCT から得ることが出来る。そして、これまで手探りで行っていた根管口明示をマイクロスコープ下で明るい照明の下、拡大された視野でマイクロスコープ用の機器・器材を用いて行い、マイクロスコープでは見ることのできない湾曲根管の先は、Ni-Ti ロータリーファイルを用いて拡大形成ができるようになった。これまで以上の精密な抜髄・根管充填ができるようになった。

一方、再根管治療においても、従来は外科的歯内療法に頼っていた症例も、CBCT 撮像とマイクロスコープ下での診査によって、再根管治療が必要となった原因を特定できる確率が高くなった。CBCT では判別できない破折や穿孔もマイクロスコープを使用することで発見することができる。未探索だった根管の処理ができないために病変が消失しない、あるいは根尖部分岐根管の未処理によって病変が消失しないなどの症例もマイクロスコープ下で適切に処理することで非外科的に根管治療のみで回復が可能となる。

それらの症例を提示しながら、CBCT とマイクロスコープを有効的に利用し、機器・器材にどのようなものがあるかを合わせて解説する。